

## 1. 実施概要

- (1) 日時：平成24年11月5日（月） 13:30～15:30  
 (2) 場所：大垣市総合福祉会館5階ホール  
 (3) テーマ：「元気ハツラツ商店街とまちなか観光による賑わい創出」  
 ～歩いて楽しむ中心市街地を目指して～

### (4) 進行

- 13:30～13:33 開会  
 ・開会の挨拶 大垣市長 小川 敏
- 13:33～13:53 基調講演  
 ・岐阜経済大学教授 竹内 治彦
- 13:53～14:03 国からの施策紹介  
 ・内閣府地域活性化推進室参事官 柳澤 伸治
- 14:03～14:23 自治体からの事例紹介  
 ・大垣市長 小川 敏  
 ・敦賀市副市長 塚本 勝典
- 14:23～14:28 (休憩)
- 14:28～15:28 パネルディスカッション  
 ・コーディネーター：竹内 治彦  
 ・パネリスト：上記市長・副市長、  
 元気ハツラツ市実行委員会委員長 松本 正平  
 アクアウォーク大垣支配人 辻 英行
- 15:30 閉会

## 2. 開会の挨拶

- 現在中心市街地活性化については、ハード事業やソフト事業、再開発や施設整備、またイベントなど様々な事業が行われているが、全国地方都市の中心市街地はなんとなく元気がない。居住人口、交通量、商業販売額などの減少があり、厳しい状況になっている。
- そうした中、積極的に取り組んでいる事例を紹介させていただき、日本全国を元気にしていこうということだ。このシンポジウムは22市で開催される。今回は「元気ハツラツ商店街とまちなか観光による賑わい創出」というテーマのもと、皆様とともに語り合いをさせていただき、元気で魅力あるまちの顔づくりを進めていけたらと思う。



### 3. 基調講演

《まちなかに賑わいを創り出すまちづくりについて》

- 県事業で「若者の消費動向調査」をさせていただいた。岐阜県では非常にモータリゼーションが進んでいる。愛知県より圧倒的に高い。おしゃれ着という項目でもショッピングモールでの買い物が多い。つまり名古屋へはあまり行っていないということだ。そこから中心市街地のライバルはショッピングモールということがわかる。そういう意味で駅近くにある大垣市のアクアウォークは貴重な資源といえる。
- 「元気ハツラツ市」はイベントとしてうまくいっている。継続してやっていること、また時間消費の面からもそうだろう。駅前を広場にして遊んでいただくコンセプトがいいのではないか。ショッピングとイベント的なものがつながっているところが魅力だといえる。
- 観光というポイントも大事で、たとえば路面電車は駅とちょうどいい距離の観光スポットがあり、その間に商店街があったりする。岡山や桑名がそうだ。往復3kmぐらいのところで食べたり歩いたりしていただくのがちょうどいい。人を呼ぶのは一枚のいい写真があれば動く。まちなかに川やきれいな桜が咲く大垣市もいいのではと思う。またそれをどうやって商売につなげていくかも重要。遠方から来ていただいて泊まっていただくのもいいのではないか。そういった提案がこれからの課題だと思う。大垣市では朝歩くと驚くほど大勢の人が散歩などをしている。住んで良いところは旅行者にとっても良いところだといえる。



### 4. 国からの施策紹介

- 平成18年に改正法を施行して5年が経過、この間、各地でまちなかにぎわいづくりなどいろいろな取組みがされているところだ。これまで107の市で実施され、そのうち8つの市では第二期の取組みへと進んでいる。7月に再生戦略を政府として作成したが、重点施策として集約型のまちづくりや次世代型生活への対応を掲げ、中心市街地活性化等に向けた現行施策の検証を行うこととしている。
- 地域再生法、構造改革特区について通常国会で改正が行われた。そのなかで特定地域再生制度が



近々、第二次の募集をすることが決まっているので、内閣府までご相談いただきたい。経済産業省では中心市街地の魅力発掘創造支援事業、もうひとつは商業等の活性化に関する委託事業がある。国交省では、暮らしにぎわい事業、都市再生計画事業などがある。総務省では、ソフト事業、ハード事業についての各種の支援措置がある。

- 内閣府では評価調査委員会をつくり議論をしているが、抜本的な発想の転換も必要ではないかということで進めている。今後全国のシンポジウムの意見も踏まえながら、新しい中心市街地活性化対策に向けて各省庁とも議論を深めていきたいと考えている。

## 5. 事例紹介

### (1) 大垣市

- 大垣市では他の都市同様、中心市街地の空洞化が進行する中、平成10年度に最初の活性化基本計画を策定し、各種施策に取り組んだが十分な成果が得られず、平成21年度に新たな基本計画を策定、認定され、現在事業を展開しているところだ。
- ソフト事業の目玉が「元気ハツラツ市」で、22年度から商店街振興組合連合会の皆さまにより毎月第一日曜日に駅通りを歩行者天国としたもので、大垣市の名物イベントとして定着している。ほかにも着物姿で中心市街地を回遊していただく「芭蕉元禄大垣きもの園遊会」や「水の都おおがきたらい舟」、また空き店舗を活用したギャラリーや「芭蕉元禄大垣イルミネーション」など一年を通してにぎわいづくりを行っている。
- ハード事業の目玉のひとつとしては、「奥の細道むすびの地記念館」がある。俳人・松尾芭蕉が奥の細道の紀行を終えたむすびの地に本年4月オープンし、入館者はこの8月に10万人を超えた。さらに市のシンボルでもあり昨年改修を終えた大垣城や美濃路など歴史文化資源と連携させ、大垣市らしいまちなか観光を楽しんでいただける取組みを進めている。もうひとつは大垣駅周辺における各種整備事業があり、利便性向上だけではなく南北間に新たな人の流れを作り、商業の活性化や居住人口の増加も図っていくものだ。
- これらの様々な事業を通じて、居住者にも観光客にもまた商業者にとっても魅力的な中心市街地づくりを推進し、歩いて楽しめる中心市街地を目指してまいりたい。



### (2) 敦賀市（福井県）

- 敦賀市は国内航路は盛んだが、人の流れを作るためには外国船のクルーズやフェリーが必要になってくると思われる。敦賀一小浜間が2年後高速道路で結ばれ、北陸道などとの環状線ができ、こういう回遊性がまちづくりに大きく資すると思われる。新幹線も2025年までに敦賀まで開業する予定で、まちづくりに大きなツールが手に入られると考えている。
- 駅から港まで3kmあるが、歩いて回って1時間もあれば十分なところだ。港周辺に舟溜りゾーンがあり、ここを人々が癒されるような空間としてブラッシュアップしていきたい。博

物館も明治3年の頃に戻すような改築を着工したところだ。朝市も月1回やっている。さらに町家を改築して、食や文化を発信する拠点にしていきたいと進めている。敦賀のまちは国鉄時代から鉄道で栄えてきたので、鉄道資料館や貨物線の活用を考え、また赤レンガ倉庫が残っていることから「赤レンガサミット」も開催されている。



- 異国情緒たっぷりの港まちだった金ヶ崎地区が衰退してきているので、100年前に戻して歴史情緒と国際色豊かなまちに復元しようと長期的な計画を立てるなかで、金ヶ崎周辺整備構想を策定した。ちなみに今ちょうどこの冬の蟹が解禁になるので、ぜひ敦賀のまちへ来て味わっていただければと思う。

## 6. パネルディスカッションの概要

- (コーディネーター) ただ商店のためのにぎわいだけではなく、新たな社会的な価値を見出すことの必要性を感じているが、中心市街地活性化の意義をどう感じているかを伺ってきたい。
- (松本委員長) 中心市街地にはいろいろな方々が住み、仕事で通われる方もいて、商店街というのはそんな中の“花”かと思う。そして認知度をあげるのに尽きる。そのための「元気ハツラツ市」というのは意義がある。継続して毎月行っていることでリピートしていただける。いろんな人が参加していることで中心市街地らしい活性化が生まれる。
- (辻支配人) ハツラツ市ではスタンプラリーをやっていて、出発点がアクア大垣だ。駐車場に車を置きスタンプラリーでいろいろ回って、抽選会をやるという仕組み。自由に行ったり来たりするので非常に活性化になっていると感じる。チラシを出すと、朝400人ぐらいが並んでいてすごい効果だ。
- (敦賀市副市長) 敦賀市がいちばん苦しんでいるのは、土地だけ持っている方、店だけ持っている方、そこに資本を入れようとする方、いろいろ利害関係があり、それをいかに、誰が調整をしてみんなの思いをひとつにするかという点だ。
- (大垣市長) 大垣市には観光のシンボルとして大垣城、芭蕉むすびの地、水門川があるが、それと同時に駅通りがあるのでそれを南北一体開発してまちの魅力、求心力を高めていきたいと考える。コンパクトシティというのは行政の面からいっても効率がいい。
- (松本委員長) 我々も空き店舗問題があり、地権者など複雑な問題がある。若い人がお店を出したいという情報も来ている。たとえばオフィスをシェアハウスのようにして使う工夫もある。そういう新しいスタイルで家賃を得ていただくとか、常々考えている。
- (コーディネーター) テーマである“歩いて楽しめる”という部分についても現状や今後のお話を伺いたい。

- (松本委員長) たとえば有名なオオガキ珈琲などがあるので、それを活かせば商店街のお店で買い物をしてくれたりするのではないかと。また、お店を出したいという若い人のチャレンジのチャンスが商店街の中にもある。門戸を開いていくことが大事ではないかと。



- (辻支配人) 商店街には、たとえば三丁目の夕日に出てきそうな居酒屋や変わった個性のある店もある。そういうところを自由に見ながら、またこちらに来て買い物をしたりするなどしたら活性化になると思う。
- (敦賀市副市長) 一見のお客ではなくリピーターになってもらうための必然性をつくっていかないと。さらにこれからは、北東アジア、韓国、ロシアなどを視野に入れたことをしていないと、この人口減の中で活力が出てこないのではと認識している。
- (大垣市長) これからネットビジネス社会になると、物流センターと家を結んで人はずっと家の中にひきこもるのかと。それは寂しい。やはり回遊性のあるまちづくりが求められているのではと思う。高齢者にとっても中心市街地は駅もあり、医者もいて、買い物もできて、ウォーキングもできてと、これほど住みやすいところはないと思う。

この後、一般来場者から複数の要望・意見が出され、コーディネーターがそれらに答え、まとめる形で終了した。

## 7. 閉会